

私は少し前、学校で「情報モラル」について学ぶ機会がありました。最初にこの言葉を聞いたときは、どんな意味があるのかよく分かりませんでした。が、「情報モラル教室」を通して、「インターネットやSNS、スマホなどを使うときに、正しく、安全に、思いやりを持って利用するための考え方や態度」と分かりました。あの授業を聴いて、「社会を明るくする運動」について深く関わっていると感じました。

私はこれまで、ニュースでネットに関する犯罪の報道を見たとき、「悪いことをした人は罪を受け釈放される」としか思っていました。しかし、「情報モラル教室」を通して、「その人が二度と過ちをしないように立ち直れるようにすることが大切」という考え方になりました。そのような社会をつくるには、私たちが罪を犯した人でも安心して基らせる社会をつくることが必要だと考えました。

思い返すと、身の回りの生活でも似たようなことがあります。例えば、友達が身勝手な行動をしてゐるのを見たとき、「子供っぽくて嫌だな」と避けてしまふことがあります。他にも、友達がルールを破って先生に注意されてゐるのを見たとき、「信用できないな」と避けてしまふことがあります。ですが、その一度の失敗だけで人を決めつけるのは間違つてゐると思ひました。逆に、その後どう立ち直りやすい空気をつくるのが大切なのだと考えました。

「社会を明るくする運動」で大切にされてゐるのは、「罪を犯した人の立ち直り方」だと思ひます。犯罪や非行は決して許されません。その人を一生除け者にしてしまふのではなく、更生できるように支えることが必要だという意味です。この考え方は、誰かが何かで失敗したときに受たく突き放したり、何もせずに見物するのではなく、「次は良くなるよ」と励ますことができれば、その人が前

向きに頑張れるようになるはずです。社会全体で支え合うことこそが、人権を守り、社会を明るくすることにつながるのだと思います。

私は部活動で、友達と陸上の県大会に挑戦し、全国大会への出場を目指していました。友達がもう少しで全国大会への出場が下きそうでしたが、あと少しの所で逃してしまいました。そのときに「全国出場は逃しちゃったけど、とても良い走ったよ」と声をかけました。最初はただの励ましのつもりでしたが、

が、後から「少しくやしんだけど、そう言ってもらえて悔いのない走りができたよ」と言われて、とても嬉しかったのを覚えています。小さな声かけや思いやりが人の心を明るくすることにつながるのだと実感しました。社会を明るくする運動も、一人のこうした小さな行動の積み重ねなのだなと思います。

また、私はこの運動について学んだから、ニュースを見るときの気持ちも少し変わりました。「社会を明るくする運動」を学んだか

「悪いことをした人は悪い人」と単純に
考えていました。今は「どうしてその人は
そのようなことをしてしまっただのか」や「周
りの人が支えることによっで立ち直れるの」で
はないか」と思うようになりました。どんな
理由があっても犯罪は許されませんが、立ち
直るための道を閉ざしてしまうのではなく、
やり直せる社会を私たちがつくっていくのが
大切だと思います。

「社会を明るくする運動」は、大人だけで
なく、私たち中学生にもできることがあります。
まず、いじめをなくすことや困っている友達
に声をかけること、相手の失敗を許し支える
こと、自分が失敗をしたときは素直に謝ること。
そうした身近な行動が、犯罪や非行を減
らし、安心して暮らせる社会につながってい
くのだと思います。

私はこれから、自分の周りで困っている人
や失敗した人がいたら、「大丈夫」や「一諸
に頑張ろう」と言える人でありたいです。そ

5
して小さなことでも、自分の行動で誰かの心を明るくできるようになりたいです。そうしたふとりふとりの思いやりや行動が集まると、犯罪のない、誰もが安心して暮らせる明るい社会をつくっていくのだと思います。

私が大人になったとき、身の回りの環境や人、世間の考え方、自分自身の全てが変わっていると思います。将来はどんな人なのか、どんな職業なのか、どんな生活をしているのか不安なことは沢山あります。その中でも、

中学生のころに学んだ「社会を明るくする運動」を忘れずに、何か困っている人がいたら、「大丈夫」と手を差し伸べられる人になり、誰もが安心して暮らせる明るい社会をつくる一員になりたいです。